

## 巻頭言

## 令和4年度診療報酬改定を終えて

今年度も新型コロナウイルス感染拡大は収まらず、ワクチンや治療薬の準備、調達等のコロナ対応に加え医薬品の供給不足対応と、私たち薬剤師はこれらプラスαの仕事に追われた1年でした。そして、気が付けば令和4年度の診療報酬改定が終わっていたという感じではないでしょうか。

いざふたを開けてみると、日病薬が要望したいくつかの項目が新たに認められた一方で、摂食嚥下支援加算の算定要件の職種から薬剤師が外されていました。なぜ?と思われた先生方も多いと思います。それはこの加算の実施件数が思った以上に伸びなかったという検証結果が出たことです。そして伸びなかった理由として、人員要件が厳しく、中でも薬剤師の参加が望めないということが挙げられました。薬剤師を外すことで実施件数が伸びると国は考え、要件緩和を目的として薬剤師を外したと聞きました。これは、国が今後、やらなければ、またできなければ診療報酬から外していくという方向性を示したように思います。

私たち薬剤師はこの結果を真摯に受け止め、今一度私たちが果たすべき役割、担うべき業務について考えるべきだと思います。そして対物業務から対人業務への移行を早急に進め、多くの実績をもって次の診療報酬改定に臨みましょう。

副代表幹事 天正 雅美



## 2021年度全国処方調査中間報告 調査委員会

昨年10/31に実施した処方調査では、全国より、多くの貴重なデータをご提供頂きました。業務繁多にもかかわらず調査にご協力頂きました先生方、本当にありがとうございました。

## 調査背景

	参加施設数	データ数	平均年齢
入院	73施設	8,205症例	59.0歳
外来	50施設	4,863症例	51.6歳

※抗精神病薬「プレクスピラゾール」「プロナセリンテープ」は除外。(換算値が公表された後に再集計予定)

## 集計結果

	平均処方剤数	平均投与量 ± 標準偏差	単剤処方率
入院			
抗精神病薬	1.7±0.9 剤	711.0±525.0mg (CP換算)	44.1%
抗パーキンソン薬	0.4±0.6 剤	0.9±1.6mg (BP換算)	
抗不安薬・睡眠薬	1.1±0.9 剤	7.7±13.4mg (DAP換算)	
外来			
抗精神病薬	1.5±0.7 剤	530.0±427.0mg (CP換算)	56.8%
抗パーキンソン薬	0.4±0.6 剤	0.9±1.6mg (BP換算)	
抗不安薬・睡眠薬	1.2±1.1 剤	9.2±13.9mg (DAP換算)	

## 【発表予定】

本年11/4~6、東京で開催されるBPCNP/NPPP4学会合同年会上において、3演題を発表いたします。多くの先生方にご参加いただき、活発にご討議いただければと思います。

## 2021 年度下期の活動報告

テーマ:精神疾患患者さんと考えるSDM

先生方のお名前は敬称略で記載させて頂いております。

ブロック	開催地	開催日	講演 I	講演 II	参加人数
関東・甲信越	東京	12月8日	寺久保 巽 (高月病院)	澤田法英 (こころと眠りのクリニック成増)	161
北陸	金沢	3月6日	坪内清貴 (金沢大付属病院)	内藤暢茂 (金沢大付属病院)	181

※開催は WEB オンラインです。

### 2021 年度下期ブロック講演会を振り返って

#### 【関東ブロック】

オンライン配信のため、全国から多くの先生方が参加されました。オンライン配信は、自分の地域以外の医師・薬剤師等の講義が聴講でき、場所を選ばないというメリットがありますが、演者の先生の熱い思いを共感しにくいとも感じています。早く対面（参加型）講習会が開催できる日が来ることを願うばかりです。

関東ブロック世話人 高橋 結花

#### 【北陸ブロック】

北陸ブロックが本年度最後（4回目）の講演会となりました。講演では SDM の本質を理解し、臨床現場で生かせるようなご講演をしていただき、アンケートで「今回は神回でした」との評価もあり、大変うれしく思っています。また、直接お会い出来ず残念ですが全国から多くの方に参加いただきオンライン形式のメリットを強く感じています。

北陸ブロック世話人 中川 将人

## ECTトレーニングセミナー（WEB）に参加してみました

2022年2月19日（土）、日本精神神経学会 ECT トレーニング運営委員会主催の第15回 ECT 講習会（ECT トレーニングセミナー）に参加しました。私がこの講習会に参加しようと思った理由は、昭和大学附属烏山病院では、薬学部実務実習対象学年（4/5年）に対し全員必修の「精神医療実習」を行っていますが、そのプログラムの中に ECT 見学があり、指導する立場上、学生の質問に正しく回答することで理解を深めてもらいたいと思ったからです。

この講習会では、① ECT の基礎と実践、②薬物療法・身体管理、③麻酔管理のポイント、④症例検討・質疑応答が行われ、mECT 開発の経緯からサイマトロンの特徴、施行中の自律神経の変化、脳血流量の変化、適応症例の判断、禁忌薬、禁忌症例、準備しておくべき医薬品、有効けいれんを導く方法、併用できる薬物療法などが紹介されました。

精神科において ECT 療法はたいへん有効な治療であり、また重要な治療選択肢の一つです。私たち薬剤師は併用薬を事前にチェックすることだけでなく、患者さんに相談された際に ECT の有効性や安全性を正しく伝えることが出来れば、患者さんの安心につながり、また医師からの信頼も得ることができると思います。興味のある方は、是非一度参加してみてください。

顧問 黒沢 雅広

## 病院紹介コーナー 特定医療法人さっぽろ悠心の郷 ときわ病院

当院は北海道札幌市、その中でも緑豊かでのんびりとした空気が流れる場所に昭和53年（1978年）11月に開設されました。平成10年（1998年）には、2病棟から4病棟へと増設して精神科急性期治療病棟、認知症治療病棟そして慢性期の精神療養病棟（2病棟）への機能分化を進めました。平成23年（2011年）12月に病棟改築を行ない、認知症治療病棟の治療環境を改善し、また、翌年3月から精神科救急病棟（スーパー救急病棟）を稼働し、以来、道央圏南ブロックの精神科救急中核病院としての役割を果たして参りました（全病棟数205床）。さらに、重度認知症デイケアおよび宿泊型自立訓練施設の開設、平成25年（2013年）10月の児童精神科外来（ときわこども発達センター）の開設、放課後等デイサービスと発達支援センターの開設など、子どもから老人までを対象に、医療と福祉を両輪とした多職種連携での事業運営を本格化しました。現在は、幼児期から老年期まで、すべてのライフステージに応じた切れ目のない医療・福祉支援を提供しながら、更にその質を高めるべく国際的な認定資格の取得を行うなど、職員一同が日々努力しているところです。



薬局では薬剤師3名（常勤2名、非常勤1名）、薬局助手1名の計4名で働いております。病棟薬剤師の配置は出来ておりませんが、退院患者を中心とした服薬指導や持参薬に係る情報交換などなるべく病棟と係るように励んでおります。また、2年前に電子カルテが導入され、電子カルテ内でのカンファレンスなどに参加出来るようになり、より病棟との情報交換がスムーズとなりました。薬局の活動としては疑義照会に力を入れており、疑義のある処方箋に対しては処方の変更や提案を含めた疑義照会を積極的に行っております。今後は、当院ではあまり使用されていなかったクロザリルについて、処方を増加させる予定となっており、



薬剤師の活躍が期待されております。

どうしてもマンパワー不足に陥り、出来ていないことも多いのですが、「薬の事には必ず薬剤師が係わる」をモットーに日々奮闘しております。

<https://www.tokiwahp.jp/>

特定医療法人さっぽろ悠心の郷 ときわ病院 志田 雅彦

## 第6回日本精神薬学会総会・学術集会

精神科臨床薬学研究会の兄弟学会である日本精神薬学会からご報告させていただきます。

本年度の第6回日本精神薬学会は、日本生物学的精神医学会（JSBP）、日本臨床神経薬理学会（JSCNP）日本精神神経薬理学会（JSNP）と合同でBPCNP/NPPP 4学会合同年会として開催いたします。2022年11月4日（金）～6日（日）に東京にて“ハイブリッド（ライブ+web配信）+オンデマンド”のフルスペックで開催する予定です。“「心」につながる基礎と臨床の架け橋”を大会スローガンに掲げて、臨床現場の先生方、基礎研究に携わっている先生方ともに参加しやすいプログラムをご用意いたしました。日本精神薬学会として久しぶりの現地開催となります。会場に足を運びいただき、交流を深めることもご検討いただければ幸いです。

顧問 三輪 高市

## 2022 年度上期ブロック講演会開催(予定)のご案内

テーマ:「成人の発達障害」

ブロック	場所	開催日	配信会場
東海	名古屋	5月25日(水)	TKP名古屋ルーセントタワー
近畿	大阪	8月21日(日)	ホテルアゴーラリージェンシー堺

※ WEB 形式にて開催となります。都合により変更となる場合がございますので、詳細は PCP 研究会ホームページの活動状況欄をご覧ください。

## 日本薬剤師研修センターにおける単位認定について

日本薬剤師研修センターでは、研修認定において、薬剤師研修・認定電子システム(PECS)の導入を進めていますが、精神科臨床薬学研究会より PECS 登録申請を行ったところ、日本薬剤師研修センターより会則等についての不備が指摘され、登録申請ができませんでした。そのため、今後、当研究会のブロック講演会では日本薬剤師研修センターの単位取得は行わず、日本精神薬学会、日本病院薬剤師会の単位認定となりますことをご承知ください。

代表幹事 吉尾 隆

## 医薬品供給状況に関して(現場状況報告)

2020 年末から相次いで発生した後発品メーカーの不祥事により、医薬品の出荷停止・調整を受けて、先生方の職場でも対応に苦慮されていることと思います。また、複数の製薬メーカーが医薬品を保管していた倉庫の大規模火災も、医薬品供給不足に拍車をかけることになりました。特に後発品メーカーによる不祥事は、医薬品業界の信頼を根幹から揺るがす社会問題に発展しているにも関わらず、本稿を書いている最中にも、薬事日報から「〇〇薬品に業務停止命令-虚偽の製造記録を作成」とのタイトルが目飛び込んでくるではありませんか……。一体、(一部の)医薬品企業の倫理感はどうなっているのかと憤りを感じているのは先生方も同じだと思います。しかし、憤っているだけでは前に進みませんので、現状を打破すべく、先生方の職場でも様々な対応がなされているものと思います。

岡山県精神科医療センターの対応としては、他社の後発品に変更できるものに関しては変更し、難しい場合は先発品に戻しています。しかし、単にメーカーを変えれば良いというわけでもなく、①できるだけ元の製品と近い剤型(ヒート含む)のもの、②一包化の観点から、バラ錠があるもの、③簡易懸濁が可能なもの、をメーカー変更のポイントにしています。特に①については、外観変更で不安を抱く患者がいますので、「できるだけ患者負担が少なく、(メーカー変更について)説明しやすい製剤」であることを意識しています。一刻も早く全国に安定供給がなされることを願います。

中国・四国ブロック世話人 北川 航平

### 事務局 掲示板

#### ■ 2022 年度会費 (2022 年 4 月～2023 年 3 月分、年会費：3,000 円)

年会費は、年度初めに郵送いたします振込用紙、またはゆうちょ銀行に備付けの振込用紙にてご納付ください。未納の場合、WEB 講演会での単位シール等の取得ができない場合がございますのでご注意ください。参加される講演会開催前までにお振り込みにてお願いいたします。

【郵便局】口座名：精神科臨床薬学研究会 口座番号：00170-2-578959

\* 通信欄に、必ずご施設名、お名前、会員番号をご記入ください。

(会員番号が不明な方は、メールで事務局 (contact@pcp-rg.org) へお問合せください。)

#### ■ 事務局連絡先

〒113-0031 東京都文京区根津1-4-4 河内ビル5階

株式会社青海社 内

E-mail: contact@pcp-rg.org(メールには必ず、1. 施設名、2. 氏名を記載して下さい。)

FAX: 03-8532-6172 URL: <https://www.pcp-rg.org/>

#### 【編集後記】

先日、子供の入学式がありました。いろいろと簡略化されたコロナ対応の式でした。コロナ禍での生活が当たり前になり、人とのコミュニケーションが取りにくくなっていますが、新年度が始まり環境が大きく変化する人が多く、その中には新しい環境に適應できずに苦しんでいる人が少なからずいるのではないかと心配しています。仕事以外の場面でもそのような人たちの SOS のサインを見つけ、医療へ繋げていければ良いなと思っています。

Y. M.